

総括研究報告書

1. 研究開発課題名：母子保健領域における国際的動向を踏まえた予防方法や治療方法の開発及び情報発信等に関する研究
2. 研究開発代表者：森 臨太郎
3. 研究開発の成果

今年度は研究班から、系統的レビューやランダム化比較試験の研究論文が 17 本出版された。また、国内外のガイドラインにそれらの研究の一部を貢献することができた。ワークショップや学会や教育現場における教育活動を定期的実施し、方法論の普及や支援を実施し人材強化を行った。特に、WHO の妊婦健診のガイドライン、早産のガイドライン、および重要課題としてジカ熱の診断精度のレビューおよびスコopingレビューを実施し、WHO のジカ熱のガイドライン作成に貢献した。具体的には、①希少疾患領域における臨床研究の国際的動向を踏まえた治療方法の開発に関する研究：デュシェンネ型筋ジストロフィーに対する、筋機能の改善が初めて期待される薬剤として注目されているエクソン・スキップ療法について、系統的レビュー・メタアナリシスを開始した。プロトコルは完成し、現在エビデンスの検索段階となっている。②妊産婦保健にかかわるレビュー：学会やワークショップ開催に際して周産期領域の専門家として適切なアドバイス及び学会等への啓発活動を併せて行った。学会発表を介して臨床研究の重要性とその実施の難しさを若手医師に伝えることにつとめた。③小児保健に関するレビュー：国際蘇生法連絡委員会及び小児診療ガイドラインを主導しており、小児保健を対象とした系統的レビューに関して担当した。国際蘇生法連絡委員会の小児診療ガイドラインでは、JRC 蘇生ガイドライン 2015 が出版され、小児の蘇生の分野のガイドラインを刷新することができた。④人材育成および正常出産に関するレビュー：コクラン活動およびシステムティック・レビューの手法を紹介するセミナーとして、聖路加コクラン塾 2015「オープンセミナー：メタアナリシスを体験する」を 2015 年 12 月 12 日に開催した。正常出産に対する予防処置または助産ケアに関するコクラン・システムティック・レビューの実施としては、「分娩第 3 期における出血量減少を目的としたホメオパシー療法の有効性」に関するコクラン・システムティック・レビューのプロトコルを完成させた。⑤次世代育成のための社会科学分野におけるレビュー：プロトコル段階である **Drugs and alcohol group** のコクランレビューのタイトル“Cognitive-behavioural treatment for amphetamine-type stimulants (ATS) use disorders”のフルレビューを執筆中である。レビューに包含する研究は決定し、そのバイアスリスクのアセスメントおよびメタアナリシスまで完了した。⑥教育プログラムの構築：コクランの手法に則った母子保健、成育医療における系統的レビューの実施の一環として、フルレビュー 1 本、プロトコル 1 本を実施し、新たに 2 本のタイトル登録を行った。より有効な教育プログラムの構築とその拡充を目的として、ワークショップを実施した。加えて、平成 28 年 7 月の関連する学会でのセミナー開催に向けて準備を行った。⑦著者支援および人材育成：国立成育医療研究センターにて、6 月 19 日コクランレビュータイトル登録セミナー、9 月 5・6 日コクランプロトコルセミナー、2 月 4・5 日コクランフルレビューワークショップを実施した。奈良県立医大でも同様のワークショップを計 3 回開催した。尼崎市民病院では、診断精度の系統的レビューのワークショップを実施した。12 月 4 日には、国立がんセンター、国立精神神経センター、国立成育医療研究センター合同のワークショップを第 3 回メタアナリシス入門講座として開催した。個別指導に力をいれ、セミナー参加者の中から、コクランレビュー 12 本、系統的レビュー 10 本が出版され、教育の効果がでてきている。